

行歯会だより 第149号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

令和元年12月号



1 第41回むし歯予防全国大会 in AKITA 実施報告

秋田県健康福祉部健康づくり推進課 技師
秋田県口腔保健支援センター 副センター長 田所大典

2 災害歯科保健医療連絡協議会及びWGについて

東京都多摩立川保健所 柳澤智仁

3 災害歯科保健医療体制研修会 中日本ブロックに参加して

栃木県県北健康福祉センター 総務企画課 中山竜司

4 都道府県世話役のつぶやき ～福井県・福岡県～

- 福井県 福井県丹南健康福祉センター医療監査室
主任 市川 郁恵
- 福岡県 北九州市保健福祉局健康推進課
仲山 智恵

5 令和元年度第2回行歯会理事懇談会報告

1 第41回むし歯予防全国大会 in AKITA 実施報告

秋田県健康福祉部健康づくり推進課 技師
秋田県口腔保健支援センター 副センター長 田所大典

行歯会会員の皆様、いつも大変貴重な情報提供をいただき感謝申し上げます。

秋田県健康福祉部健康づくり推進課 技師(兼)口腔保健支援センター 副センター長の田所大典と申します。この度、7月の第37回地域歯科保健研究会(夏ゼミ in 秋田)に引き続き、11月16日(土)に秋田県にて「第41回むし歯予防全国大会 in AKITA」を開催させていただきましたのでその概要を報告させていただきます。



1 テーマについて

今回のテーマは、「目指そう健口寿命も日本一！」～秋田の健口づくり『これまで』と『これから』～とさせていただきます。当県では平成 29 年より「10 年で健康寿命日本一」目指す健康づくり県民運動を展開しております。そこで、「全身の入口である歯と口腔の健康も日本一を目指したい」、そして、「秋田県の健口づくりの歴史を紐解きながら未来につなげたい」という思いからこのようなテーマにさせていただきました。

2 開会の挨拶について

開会の御挨拶は大会長の藤原元幸先生及び N P O 法人日本フッ化物むし歯予防協会の山内皓央会長よりいただきました。続いて、秋田県から佐竹敬久知事、秋田市から穂積志市長から祝辞をいただきました。祝辞の中で知事は、赤身のステーキ肉を一度に 500g 食べることを紹介し、健康な口の大切さをお話され会場を驚かせていました。



3 基調講演について

「なぜ今、むし歯予防が必要か？」～健康寿命の延伸に向けて～と題し、東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野の相田潤准教授に御講演いただきました。世界的に最も多い疾患はむし歯であり、12 歳以降も増え続け、健康格差として生涯にわたる健康リスクとして拡大していること、64 歳以下の主な疾患の国民医療費（平成 27 年度）でも、がんや心筋梗塞を抑え、歯科疾患が最も多いことなどを紹介し、12 歳児のう蝕歯数や罹患率だけを見て「むし歯は減った」と判断してしまうことの危険性を指摘しました。また、東日本大震災の被災者において、義歯を喪失していない者と比べ、喪失した者で最も悪化した健康観は「食事」や「会話」より、「歯や口のことが原因で家族や友人、近所の人などと一緒にいることを楽しめなかった」点であったという研究結果から、歯と口腔の健康が果たす社会的な役割の重要性についても紹介がありました。さらに、自宅で暮らしている健康な高齢者でも、義歯の清掃が不十分な人は、肺炎のリスクが高くなるという最新の研究結果にも触れ、生涯にわたる歯科保健教育の重要性を強調しました。



4 シンポジウムについて

座長は東京歯科大学の眞木吉信名誉教授、シンポジストとして、秋田県から田所、秋田市教育委員会学事課から金森陽子主査、深井保健科学研究所から深井穂博所長が参加しました。

眞木名誉教授は、秋田県がフッ化物洗口を開始する際、当県の歯科保健担当であった故臼井和弘副主幹と共に県民への説明会に尽力いただいた話にも触れ、当県でのフッ化物洗口の普及やう蝕が減少している現状を感慨深く感じておられるようでした。シンポジウムの最後には、「フッ素は薬品ではなく、歯の栄養と捉えても良いのではないか」というお言葉も残されました。

当方からはシンポジストとして、秋田県におけるフッ化物洗口の歴史やフッ化物洗口の普及と効果について説明し、事業を継続性のあるものとするために条例の制定や県内における広域調整など、県の果たすべき役割について強調させていただきました。



金森主査からは、秋田市においてのフッ化物洗口導入の経緯や、フッ化物洗口を実施している市民、実施していない市民の声（①72.4% 定期的に歯科医院で予防対策を行っているから、②18.2% 効果について疑問があるから）などの紹介がありました。

深井所長からは、高齢社会に対応した個人への対応と公衆衛生施策が必要であり、ライフコースアプローチの重要性を強調し、歯科口腔保健の分野ではフッ化物応用は最も優れた公衆衛生対策の1つであるというお話がありました。また、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの観点から、歯科単独の指標を政策評価に位置付けるのではなく、がんや糖尿病等の非感染性疾患と要介護・フレイル予防の施策の中に組み込まれるようになってきていることを紹介し、多面的なアプローチの重要性についても強調されました。

2 災害歯科保健医療連絡協議会及びWGについて

東京都多摩立川保健所 柳澤智仁

平素大変お世話になっております。災害担当の理事を拝命しながら、自身の派遣報告に追われ、標記件の報告が遅滞しておりましたこととお詫びいたします。

改めての情報整理になりますが、日本歯科医師会において標記協議会が発足したのが平成27年4月15日。行歯会からは当初より会長が協議会副会長の立場で参加しています。その下部組織にあたるWGには小職が主として参加し、状況により森谷理事に代理出席をしていただいております。本会は、大規模災害時等に向けて歯科関係機関・団体同士が有機的に連携し、災害対応に関する認識の共通化を図ることを目的としており、日本歯科医師会をはじめ、都道府県歯科医師会、日本歯科医学会、公益社団法人日本歯科衛生士会等多くの歯科関係団体が参画をしています(協議会規則第4条2項参照*)。これまで通算17回開催されたWGにおきましては、災害時における各団体の体制等に係る調査、自治体における災害時歯科体制に係る調査、災害歯科保健医療連絡協議会行動指針の策定、災害歯科保健医療体制研修会の企画等に取り組んでまいりました。災害歯科保健医療体制研修会につきましては、今年度で2年目となりますが、「厚生労働省 医療関係者研修費等補助金 災害医療チーム等養成支援事業 災害歯科保健医療チーム養成支援事業」として実施しております。2年目を迎えた今年は、各都道府県推薦枠に行政職を原則1名以上参加させることとしており、行歯会会員からも複数御参加いただいております。

平成27年4月以降、多くの災害が発生し、地震だけでなく豪雨や台風による水害も記憶に新しいところかと思えます。WGにおきましても、災害が発生するたびに見直し等を図り検討を進めております。昨今の議論の中で、焦点の当たっている事項を一つ御紹介しますと、派遣チーム等における「ロジスティクスの育成」というものがあります。改めて申し上げるまでもないかも知れませんが、ロジスティクスとはもともとは兵站を表す軍事用語で、作戦計画に従って兵器や兵員を確保、管理、補給するまでの全ての活動のことを指します。前線で戦闘に従事する前方業務に対して、後方業務または後方支援と呼ばれる業務領域で、「必要なものを」「必要な時に」「必要な量を」「必要な場所に」を実現する役割を有しています。派遣チームが構成される際の要の一つである一方で、初動期対応をするには一定程度の経験を踏まえた臨機応変さが求められるため育成が困難とされています。小職自身、これまで3回、保健師チームのロジスティクス担当として初動対応にあたりましたが、被災地支援に完全なる正解はなく、毎度悩みを抱えながら帰京しております……。

会員の皆様の中には、所属する自治体において、災害発生時に上記の役割を担う想定の方もおられるかも知れません。今後WGにて様々議論を進めてまいりますので、関心を持って見守っていた



できれば幸甚です。また、次年度以降研修会も継続すると聞いておりますので、是非積極的な御参加をいただければと願っております。

* 日本歯科医師会ホームページ（災害歯科保健医療連絡協議会）

<http://www.jda.or.jp/dentist/disaster/#sec00>

3 災害歯科保健医療体制研修会 中日本ブロックに参加して

栃木県県北健康福祉センター 総務企画課 中山竜司



行歯会の皆様には、いつも貴重な情報をいただき誠にありがとうございます。
また、10月12日の台風19号で多大な被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を祈念いたします。

さてこの度、行歯会枠で中日本ブロックに参加させていただきましたので、研修会についてご報告させていただきます。

1 日時及び場所

研修会の日時及び場所は下記のとおりです。

日時 令和元（2019）年11月16日（土）午前10時30分～午後5時20分

令和元（2019）年11月17日（日）午前9時30分～午後5時00分

場所 日本歯科医師会館（東京都千代田区九段北4-1-20）

中日本ブロック 長野県、新潟県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、富山県、石川県、
福井県、滋賀県、和歌山県、奈良県、京都府、大阪府、兵庫県

参加者 歯科医師及び歯科衛生士合計60名

2 研修の内容

【1日目】

- ① 災害歯科医療概論
- ② 歯科災害派遣チームの実現に向けて
- ③ 災害歯科コーディネーターの役割
- ④ 災害時における歯科医師会の対応
- ⑤ 災害時における身元確認体制との連携
- ⑥ JMAT等との連携
- ⑦ 【ディスカッション】国における災害対応
 - (1) 大規模災害時における政府の初動対応
 - (2) 防衛省・自衛隊における災害活動
 - (3) 海上保安庁災害対応
 - (4) 警察における大規模災害時等の多数遺体取扱い
- ⑧ 【講義・ロールプレイ】心理的応急処置

【2日目】

- ① 【講義・演習】
被災市町村におけるコーディネート
- ② 【講義・演習】
都道府県におけるコーディネート
- ③ 総評、質疑

1 日目は発災時、各関係団体が災害対策本部の統一的な指揮命令系統の下、組織的に動くこと（CSCA、TTT、METHANE、chronology など）や必要な支援に繋がることが説明されました。そのためにも、平時からの災害図上訓練〔DIG(Disaster Imagination Game)〕だけでなく、顔と顔の見える関係を関係団体としっかり構築していくこと、大局をみる視点が大事だと改めて思いました。

心理的応急処置〔Psychological First Aid (PFA)〕の講義では活動の基本である P+3L〔準備(Prepare)+見る(Look)+聞く(Listen)+つなぐ(Link)〕についてロールプレイを各グループで体験しました。私は意図せずに 11 月 14 日（木）に栃木県で開催された河嶋譲先生（厚生労働省 DMAT 事務局、DPAT 事務局）の講演会を拝聴したので理解を深めることができました。

2 日目は、講義後、各グループで DIG を実施しました。地図で被災地の状況を確認し、グループ内で集団・迅速アセスメント票の記入や、地図を見ながら支援計画を立てるのですが、同じ情報を共有していても各グループでの協議結果で対応方針の違いが如実に現れるので非常に興味深いところです。

3 研修を終えて

近年、災害の発生頻度と激甚化は著しく、もしもの時に備え、我々行政側も医師会、薬剤師会、看護協会、歯科医師会、歯科衛生士会をはじめ関係団体と協力連携するため、DIG を実施し、地域の実情に応じたアクションカードの作成や災害対応マニュアルを随時修正していくことが業務として求められます。

そのためにも平時から勤務地あるいは居住地のハザードマップや地域防災計画、管内地図をみて、発災時には道路やライフラインがどのような状況になるかを想定しておくことも必要でしょう。平時に必要なことはすべて災害時にも必要だということです。

講演②歯科災害派遣チームについては行歯会理事の柳澤氏が担当され、“ロジスティクス〔Logistics（業務調整）〕担当には機転、機敏、気配りが災害派遣先で求められる”との一言がありました。今回の災害で四角四面ではなく、柔軟な対応が求められることを痛感したので、まさに正鵠を得る一言です。

4 結びに

行歯会を通じてこのような貴重な機会をいただきありがとうございました。

また、講師並びに演習補助者の皆様にも深謝いたします。

本県も台風 19 号により甚大な被害を受けましたが、佐野市、足利市、鹿沼市では復興推進本部を立ち上げ、生活再建に向け、日々前進しているところです。御支援・御協力をいただきました方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



4 都道府県世話役のつぶやき

～福井県～

福井県丹南健康福祉センター医療監査室
主任 市川 郁恵



●福井県の最近のトピックス

まず、本年2月に井下氏を滋賀県から本県に迎え、歯科保健に携わる市町・施設職員に歯科業務のあり方、目標すべき姿など行政の姿についてご教授いただきました。井下氏の熱意に圧倒されながらも事業に意気揚々となった研修となりました。

また、情報提供としまして、第78回日本公衆衛生学会総会シンポジウムの「高齢者の低栄養に関する研究と地域包括ケアシステムの実践」では、本県管理栄養士の新田主任が栄養管理ネットワーク構築の実践活動を発表しております。ご覧ください。

さて、福井県は令和元年6月1日に新たに就任した杉本知事のもと、県行政は動いております。

●世話役のつぶやき

つぶやきます。私は、今年6月に医療監査室に配属となり、医療法第25条第1項の規定に基づき病院・診療所の立入検査を実施しております。

まず、立入検査必携に掲載されている内容を一部引用します。

「公衆衛生と医療とは別分野と考える傾向もあるが、医療の問題も公衆衛生の向上および増進にとって欠くことのできない問題である。立入検査、医療計画などを含め医療を巡る諸問題は、公衆衛生の専門機関として位置づけられている保健所にとって、地域の公衆衛生の向上及び増進を図るうえで、重要な業務である。

医療行政における県の役割として、『国民に対し良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制が確保されるよう努めなければならない』と規定され、その一環として医療機関を対象に立入検査を行っていることとされている。立入検査の直接的な対象は医療機関だが、医療機関の向こう側には住民がいることを忘れてはならない。『健康を社会にもたらす為の』公衆衛生の一環として行われているのである。」（引用文献「医療機関立入検査必携」日本公衆衛生協会発行）

上記文献を熟読し、監査室職員の方々のまねをし検査に臨みましたが、労働基準、医薬品、麻薬取締、放射線管理、廃棄物処理等々、法令指導根拠が多様なうえ、解釈の難しさに日々難儀している状況です。

所属の医療監査室は福井県では当該保健所に設置しているだけで、立入検査にあたっては、地元保健所の職員に同行いただき、地元保健所長に講評を委ねております。保健所には多数の職種が在職しており、各検査担当分野を業務として精通していることから、専門性を発揮している指導には説得力があり、保健所職員の協働の源と感ずる業務です。

また、当保健所では研修医の受け入れを行っており、研修医臨床研修計画に組み込まれています。研修医から報告にあったレポートの一部を紹介します。「立入検査については、メディアの影響か悪いイメージしかなく、全病院で定期的に行うものとは知らず、改めて医療に携わっていくうえで、感染対策・医療安全などに注意を向けようという意識をもつことができた。」
「立入検査は、病院の不正探しが仕事だと考えていたが、病院内設備や書類を点検しながら、よ

り安全、安心、公正な医療を提供できるかを病院と話し合ったり検討することが業務の中心だと感じた。このような監査により日本の医療の安全性が維持されているという、病院勤務だけで知ることのできない裏側について勉強できる非常に貴重な機会であった。」などの各研修医の実習レポートを供覧する機会があり、日々の挫折から使命感を認識するなどを繰り返し、業務に対するモチベーションを挙げております。

歯科保健業務から離れ、歯科保健医療職種の増員なく虚しいと感じる面もありました。しかしながら、今は、日々立入検査の奥深さを精通しつつ、本業務は向こう側には住民がいることを忘れず、健康を社会にもたらす為の公衆衛生の一環としての認識をもちつつ業務を遂行していこうと思っております。行歯会の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

～福岡県～

北九州市保健福祉局健康推進課

仲山 智恵

●世話役のつぶやき

皆様、いつもお世話になっております。世話役と言っても特段何もしないまま、3年目となりました。前回の「つぶやき」後、本市の口腔保健支援センター（歯科保健ライン）のメンバーも入れ替わり、健康推進課長になったため自動的に口腔保健支援センター長になりました。これまでの歯科保健全般、健康づくりインセンティブ事業に加え、国保特定健診・特定保健指導、健康教育、受動喫煙防止対策、食育・栄養、特定給食施設、栄養成分表示、がん検診、健康増進計画等健康づくりを担当することになりました。現在、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」に向け、予算や人員配置も含め複数課との調整が続いています。そして、個人的には毎朝5つの弁当を作り、中学、高校のPTAと忙しい日々が続いています。



筆者は下段中央

●トピックス

さて、前回、福岡県全体の口腔保健の状況についてザックリ掲載させていただいたので、今回は、わが北九州市について紹介させていただきます。九州最北に位置する本市は昭和38年世界初の対等5市合併により誕生した九州最初の政令指定都市です。市の歯科保健事業で特徴的なのは（市外に住んだことがない私は普通だと思っていたのですが）、昭和40年代から乳幼児健診を集団健診ではなく、医科は医科医療機関で、歯科は歯科医療機関で実施していることでしょうか。歯科医師は私を含め2人、歯科衛生士も嘱託2名（口腔保健支援センター、認知症支援・介護予防センター）のみのため、その他の事業はほぼ市歯科医師会と県歯科衛生士会に委託し実施しています。ちなみに県歯科医師会の下にある5つの歯科医師会と別に市歯科医師会があります。私の職場は市役所本庁舎ですが、市歯科医師会、市医師会は市保健所と同じ建物内にあります。

私と同年代の皆さんは北九州市がかつての「日本四大工業都市」の1つとしてご存知かもしれませんが、今は「環境未来都市」、アジア初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」、NPOが実施する「次世代育成環境ランキング」8年連続1位、宝○社「住みたい田舎（人口10万人以上）ベストランキング」シニア部門2年連続1位（政令指定都市ながら「田舎」・・・）だったりします。日本三大夜景都市（日本夜景遺産6か所）、2020東アジア文化都市国内開催都市決定、令和元年は、ラグビーワールドカップウェールズ事前キャンプ、ギラヴァンツ北九州最下位から

の J3 優勝、J2 昇格決定と大変盛り上がっています。映画や CM も多く撮影されており、まだまだご紹介したいことはたくさんありますが、誌面の都合もありこれくらいにしたいと思います。ぜひ「北九州市」で検索してみてください。

5 令和元年度第 2 回 行歯会理事懇談会報告

日時:令和元年 11 月 26 日 (火) 19 時~21 時

会場:八重洲倶楽部第 7 会議室

出席者:長、高澤、山田、福田、白井、柳澤、
田村、中山、岸井、小池田、吉野、
加藤 (敬称略)



【報告】

1 公衆衛生学会自由集会 in 高知

10 月 23 日に第 78 回公衆衛生学会が高知県で開催され、当会自由集会に 37 人が参加。災害対策について、長会長、柳澤理事、高澤副会長、中久木先生に話をさせていただいた。集会後の意見交換会にも多くの方が参加し、活発な意見交換ができて充実した会だった。

○歯科の自由集会については、開催県の歯科医師会等が行っていた時期もあることから、今後行歯会としてどのように対応していくか検討した。

→他団体の参画状況の様子を見ながら、どこも開催しないようであれば歯科の自由集会が途切れないように、当会が参加する形で対応していく。

【議題】

1 世話役アンケートについて

会員 ML では、自由記載は、内容を区別して整理しながら全回答を返す。行歯会だよりには、年度内を目途に結果を抜粋した形で掲載する。

2 人材育成ガイドラインの活用について

(1) Word 版の提供について

ガイドラインに記載されている図などは、本ガイドラインでの使用のみ作成者に承諾を得て掲載しているものがあること、データ送付窓口などの管理体制確保が難しいことから、データは PDF のみを公開することとした。

(2) 学会発表について

公衆衛生学会等で報告する方向で検討する。

3 「全国乳幼児歯科健診結果」のエラー修正について

国立保健医療科学院ホームページ内の歯っとサイトに掲載している「全国乳幼児歯科健診結果」について、平成 30 年度以降は、都道府県から修正依頼があった場合のみ対処して修正する。

4 次期執行部について

(1) 今年度退職する理事の、残り 1 年の後任について

→ 高澤副会長に人選を一任した。

(2) 次期執行部選出の進め方等

現役員の任期が令和2年度で満了となることから、後任の選出について考えていく。

5 行歯会規約について

改定が必要な箇所は理事に諮り、改定後、会員にはMLで周知する。

6 災害担当の増員について

日歯災害協議会は長会長、ワーキングは柳澤理事及び森谷理事で担当しているが、今後、協議事項にロジスティクスについて入ってくることから、この件について対応可能な人を増員確保し、情報を共有しておきたい。

→災害担当理事が増員者を検討し、理事に諮る。

- ・日歯災害研修の当会からの講師及び参加者（行歯会枠及び都道府県枠）をまとめておく。

♪ 編集後記 ♪

12月になりました。業務の上ではまだ年度途中ですが、この時期は一旦今年を振り返ってしまいます。皆さまにとって、平成から令和に移った今年は、どのような1年でしたでしょうか。個人的には、今年是全国の皆さんとお会いしたりご連絡したりする機会が多かった年でした（日本公衆衛生学会の地元開催・行歯会だよりの編集副担当になったことにより）。

特に行歯会だよりでは、突然のご相談等で驚かれたりスケジュール的に無理をお願いしていたりして、申し訳なく、ご協力に毎回感謝しております。来年も、引き続きよろしく願いいたします。（Y）

暑い暑いと言って過ごしていた日が昨日のようですが、最近は街でダウンを着ている方がふつうになりました。4月に職場を異動し、ラジオ体操の声かけや、楽しそうに写真を撮っている外国人旅行者の間をくぐりぬけながら帰宅する毎日にも慣れ、行歯会だよりの編集のスピードも少しだけ早くなりました。12月号も何とか無事に発行でき、毎月、毎月、ご協力いただいた皆様に感謝です。来年もよろしく願いします。（S）

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛にご連絡ください。